

本州では毎日のように熱中症への注意報が出されていますが、網走では過ごしやすい日が続いています。市内でラグビーや陸上競技などの夏合宿が行われているのも頷けます。

▼さて、オホーツク海のケガニ漁業も終盤に入ったころと思われます。自主休漁中に行いましたオホーツク総合振興局管内のケガニ密度調査の結果（速報）を網走水試のHPに掲載しました。その結果、来年度に漁獲対象となる甲長7cm以上の雄がにの資源量指数は、前年の0.82倍に減少しています。この減少傾向は平成26年度から3年連続となっています。また、平成30年度以降に漁獲対象となる甲長7cm未満の雄がにの資源量指数も前年の0.51倍に減少し、こちらは4年連続の減少となっています。稚内水試による宗谷総合振興局管内の調査でも、当管内と同様にそれぞれの資源量指数は前年より減少していることから、今後の資源動向を注視していく必要があります。

▼毎年実施しています水産研究本部の成果発表会が8月9日（火）に札幌市にある第二水産ビル8階で開催されます。以下の内容で13題の発表が予定されておりますので、興味ある方は是非参加いただければと思います。なお、すべての口頭発表課題について発表者によるポスター展示があり、発表者と直に意見交換ができる時間を用意しております。詳細は水産研究本部のHPをご覧ください。（網走水試 上田）

サケ セッション 10:10~10:55

- ①サケ稚魚の放流サイズを再考する ー種苗特性を考慮した放流サイズの検討ー
- ②サケ稚魚の放流適期を探る ー太平洋東部地区のサケ資源回復に向けた放流方法の検討ー
- ③釣ってよし食べてよしのヒメマスの多様な生きざまにせまる ー3つの湖のヒメマスの生態と生息環境ー

ミニシンポジウム 「キツネメバル栽培漁業の現状と展望」 11:00~11:55

- ④子供を毎年安定して得るために！ ーキツネメバルの人工授精技術開発ー
- ⑤大海原に旅立つ水槽育ちのキツネメバル ーキツネメバルの放流技術開発ー
- ⑥キツネメバルの資源増大を目指して ーキツネメバル栽培漁業の今後の展望ー

日本海の海洋環境と資源変動 セッション 13:30~14:40

- ⑦ミニ大洋と呼ばれる日本海で今なにが起きているのか？ ー道西日本海における海洋環境の特徴と変動要因ー
- ⑧スケトウダラはなぜ減ったのか？ ースケトウダラ資源の変動と海洋環境ー
- ⑨日本海の甘エビ（ホコカガビ）に何が起きているのか ーホコカガビ資源の変動要因と深海の環境ー
- ⑩環境変化に翻弄される日本海の底魚資源 ーニシン資源増加の背景からみえる資源管理方策の出口ー

一般発表 セッション 14:50~15:35

- ⑪放流されるアユはちゃんと生き残っているの？釣られているの？ ー放流アユの添加効果と釣獲実態ー
- ⑫ウニ殻のお家で微生物を育てて、水をキレイに！ ーウニ殻由来の生物ろ過材の有効性ー
- ⑬宗谷発、イシモズクの新たなブランド化 ー宗谷モズクを用いた冷凍食品の開発ー